

一関工業高等専門学校				未来創造工学科（一般科目）								開講年度		平成29年度（2017年度）													
学科到達目標																											
創造性豊かな未来を担う技術者の基礎となる幅広く深い教養を身につけるために、専門4系に共通の一般科目を習得します。専門科目の基礎となる数学や物理・化学を含む基礎科学，教養・人間性の幅を広げる国語・社会・体育・芸術，および国際人としての基礎力を養うための英語・第二外国語（ドイツ語，中国語，フランス語）をバランス良く修得することにより，グローバルな人材を養成します。																											
【履修上の注意】																											
「課題研究Ⅰ（フランス語）」は，どの学年でも履修可能です																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
一般	必修	国語Ⅰ	0001	履修単位	2	2																津田 大樹					
一般	必修	地理	0007	履修単位	1			2															平林 一隆				
一般	必修	歴史	0008	履修単位	2	2																	松浦 千春				
一般	必修	基礎数学ⅠA	0011	履修単位	2	4																	佐藤 一樹				
一般	必修	基礎数学ⅠB	0012	履修単位	2			4															佐藤 一樹				
一般	必修	基礎数学Ⅱ	0013	履修単位	2	2																	高橋 知邦 松尾 幸二				
一般	必修	基礎物理	0021	履修単位	1			2															白井 仁人				
一般	必修	化学Ⅰ	0026	履修単位	2	2																	滝渡 幸治 木村 寛恵 中川 裕子				
一般	必修	生物・地学	0028	履修単位	1	2																	堀江 佐知子				
一般	必修	保健体育Ⅰ	0029	履修単位	2	2																	菅野 俊郎				
一般	必修	総合英語ⅠA（コミュニケーション）	0033	履修単位	2	4																	千葉 圭				
一般	必修	総合英語ⅠA（文法）	0034	履修単位	2	4																	二本柳 譲治				
一般	必修	総合英語ⅠB（コミュニケーション）	0056	履修単位	2			4															千葉 圭				
一般	必修	総合英語ⅠB（文法）	0057	履修単位	2			4															二本柳 譲治				
一般	選択	課題研究Ⅰ（フランス語）	0066	履修単位	1	集中講義																	矢野 禎子				

津田 大樹

平林 一隆

松浦 千春

佐藤 一樹

佐藤 一樹

高橋 知邦,松尾 幸二

白井 仁人

滝渡 幸治,木村 寛恵,中川 裕子

堀江 佐知子

菅野 俊郎

千葉 圭

二本柳 譲治

千葉 圭

二本柳 譲治

矢野 禎子

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：新高等学校国語総合 (明治書院)					
担当教員	津田 大樹					
到達目標						
①論理的な文章を読み構成や記述内容を的確に理解することができる ②文学的な文章を読み表現や主題を的確に理解することができる ③根拠に基づいて文章を理解し自分の考えを表現することができる ④言葉の歴史的・文化的背景を踏まえながら表現を理解し自分の考えをまとめることができる 【教育目標】B・E						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
①論理的な文章を読み構成や記述内容を的確に理解することができる	論理的な文章を読み構成や記述内容を的確に理解することができる		論理的な文章を読み構成や記述内容の概要を理解することができる		論理的な文章の構成や記述内容を的確に理解することができない	
②文学的な文章を読み表現や主題を的確に理解することができる	文学的な文章を読み表現や主題を的確に理解することができる		文学的な文章を読み表現や主題の概要を理解することができる		文学的な文章の表現や主題を的確に理解することができない	
③根拠に基づいて文章を理解し自分の考えを表現することができる	根拠に基づいて文章を理解し自分の考えを表現することができる		根拠に基づいて文章の概要を理解し自分の考えを表現することができる		根拠に基づいた文章を理解や自分の考えを表現ができない	
④言葉の歴史的・文化的背景を踏まえながら表現を理解し自分の考えをまとめることができる	言葉の歴史的・文化的背景を踏まえながら表現を理解し自分の考えをまとめることができる		言葉の歴史的・文化的背景を踏まえながら表現の概要を理解し自分の考えをまとめることができる		言葉の歴史的・文化的背景を踏まえて表現を理解し自分の考えをまとめることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の文章の読解と考察を通して、日本語の理解力と表現力を身につける。					
授業の進め方・方法	授業は教科書を主とし、適宜参考資料を補って進める。					
注意点	【事前学習】事前に教材の文章を読み国語辞典等を活用して語句表現を確認しておくこと。 【評価方法・評価基準】試験結果(100%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。総合成績60点以上を単位修得とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概説		教科学習の意義と方法を理解できる	
		2週	小説		文学的な文章を読み表現や主題を理解できる	
		3週	小説		文学的な文章を読み表現や主題を理解できる	
		4週	小説		グループワークを通して他者を理解し相互の考えを尊重しながら意見をまとめることができる	
		5週	評論		論理的な文章を読み構成や記述内容を理解できる	
		6週	評論		論理的な文章を読み構成や記述内容を理解できる	
		7週	評論		グループワークを通して他者を理解し相互の考えを尊重しながら意見をまとめることができる	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	読解と表現		読書を行い文章の的確な要約と自分の考えの記述ができる	
		10週	日本語の文法と歴史		言葉の歴史的・文化的背景を踏まえて表現を理解できる	
		11週	説話		説話を読み表現を的確に理解できる	
		12週	随筆		随筆を読み表現を的確に理解できる	
		13週	日本語の表記と歴史		日本語の表記の歴史的経緯を理解できる	
		14週	故事成語		成語の意味と起源を理解できる	
		15週	期末試験			
		16週	まとめ		これまでの授業を総括し学習内容を確認できる	
後期	3rdQ	1週	詩		表現を的確に理解し主題について考察することができる	
		2週	詩		表現を的確に理解し主題について考察することができる	
		3週	評論		論理的な文章を読み構成や記述内容を理解できる	
		4週	評論		論理的な文章を読み構成や記述内容を理解できる	
		5週	短歌		表現を的確に理解し主題について考察することができる	
		6週	短歌		表現を的確に理解し主題について考察することができる	
		7週	発話と応答		情報を選択構成し口頭で考えを伝え相互に理解できる	
		8週	中間試験			

	4thQ	9週	評論	論理的な文章を読み構成や記述内容を理解できる
		10週	物語	物語を読み表現を的確に理解できる
		11週	物語	物語を読み表現を的確に理解できる
		12週	唐詩	表現様式を踏まえながら描かれた内容を理解できる
		13週	論語	表現を理解し人物・社会について考察することができる
		14週	論語	表現を理解し人物・社会について考察することができる
		15週	期末試験	
		16週	まとめ	これまでの授業を総括し学習内容を確認できる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	前期中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	合計
総合評価割合	25	25	25	25	100
論理的文章理解	10	0	10	0	20
文学的文章理解	10	0	10	0	20
論理的表現	5	10	5	10	30
言葉の歴史と文化	0	15	0	15	30

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地理	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	未来創造工学科（一般科目）			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	新編詳解地理B、新詳高等地図						
担当教員	平林 一隆						
到達目標							
世界の地域差を、自然環境や産業立地などの関連をもとに、理解する。 【教育目標】A・B・F							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	世界の自然環境、産業、文化など幅広い理解を通して、地球に生きる人間としての見識を身につける。そのことにより国際社会の一員として活躍できる技術者の素地を養う。 現在の世界が抱える様々な問題を、地理的・歴史的観点から理解することで、皮相的で浅薄な国際関係理解に陥らないようにする。同時に人類の平和的共存を求める心を養う。						
授業の進め方・方法	授業は教科書、地図帳、配布資料を組み合わせる進めるので、毎回必ず持参すること。 説明をよく聴き、板書の内容も含めて各自ノートを作成し、復習に役立てること。						
注意点	【事前学習】 「授業内容・方法」に対応する教科書のページ、および授業で取り上げる地域の地図帳のページを、事前に見ておくこと。 【評価方法・評価基準】 試験結果（100％）で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。世界の自然環境・社会環境についての理解度、自然科学・人文科学・社会科学にまたがるそれぞれの知識とその総合的な地理理解の程度を評価する。 総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	広がる現代世界と地域 世界地図の見方		地理を学ぶ意義を理解できる。 世界地図の図法と利用法が理解できる。		
		2週	世界の地形環境と産業		地形の形成要因や特徴、資源分布など産業立地との関係を理解できる。		
		3週	世界の資源・エネルギー産業		エネルギー資源の分布およびエネルギー産業の発展と現状について理解できる。		
		4週	世界の資源・エネルギー産業		原料資源の分布および素材産業の発展と現状について理解できる。		
		5週	資源の現代的課題 世界の工業		資源問題について考えることができる。 工業の世界的発展について理解できる。		
		6週	工業立地と世界の工業地域		工業の立地条件について理解できる。 工業地域の成立と分布について理解できる。		
		7週	鉱工業から見た世界の姿		鉱工業から見た世界の特徴を理解できる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	世界の気候環境と産業		気候の形成要因や特徴、世界的分布について理解できる。		
		10週	世界の気候環境と産業		世界の気候区分を理解できる。 気候区分と産業分布の関連を理解できる		
		11週	世界の農業		農業の形成条件を理解できる。		
		12週	世界の農業		世界の農業地域区分を理解できる。		
		13週	農業の現代的課題		食糧問題、国際分業、環境問題など農業を取り巻く課題を理解できる。		
		14週	世界の姿とこれからの課題		自然環境・社会環境から見た世界の姿を理解し、未来について考えることができる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験の解説、内容のまとめ・補足				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的理解	60	0	0	0	0	0	60
応用的思考	30	0	0	0	0	0	30
総合的思考	10	0	0	0	0	0	10

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『新世界史』 (山川出版社)、『最新世界史図説タペストリー』 (帝国書院)					
担当教員	松浦 千春					
到達目標						
①西洋史を通して歴史の基礎知識・概念を理解する。 ②歴史的思考力を培い、国際的視野の基礎を養う。 【教育目標】B 【学習・教育到達目標】(B-1), (B-2) 【キーワード】歴史、文化、西洋史、世界史						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	西洋史の展開を中心に概括的な歴史知識・概念を学び、歴史的思考力を培うことを通して、国際社会に生きる日本人としての世界史的・国際的視野の基礎を養う。					
授業の進め方・方法	「授業項目」に対応する教科書の該当部分を予め熟読して概要を把握して授業に臨むこと。授業は講義を中心とする。教科書解説に止まる内容ではないので、参考書により地理的・時間的位置を認識・確認して授業に臨むこと。					
注意点	西洋史の基本的知識・歴史学的基本概念の習得を通じた異文化理解、現代に生きる人間としての社会科学的認識、および西欧文化の歴史展開についての理解の程度を評価する。 【事前学習】 「授業内容」に対する教科書の内容を事前に熟読し、さらに資料集等によって知見を補足しておくこと。また、問題集によって前回の内容を確認すること。 【評価方法・基準】 試験結果 (100%) で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。総合成績 60 点以上を単位修得とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	(1)ガイダンス (2)歴史学習の意味と方法		歴史学の特性と、学習方法が理解できる	
		2週	歴史とわたしたちの社会		歴史の多様性と私たち自身との関わりについて理解できる	
		3週	先史時代と人類		人類の進化と文明形成過程について理解できる	
		4週	先史時代と人類		人類の進化と文明形成過程について理解できる	
		5週	古代オリエント文明(1)古代メソポタミア文明		古代メソポタミア文明について理解できる	
		6週	古代オリエント文明(1)古代メソポタミア文明		古代メソポタミア文明について理解できる	
		7週	古代オリエント文明(1)古代メソポタミア文明		古代メソポタミア文明について理解できる	
		8週	中間試験またはレポート			
	2ndQ	9週	古代オリエント文明(2)古代エジプト文明		古代エジプト文明について理解できる	
		10週	古代オリエント文明(2)古代エジプト文明		古代エジプト文明について理解できる	
		11週	地中海世界とギリシア文明(1)地中海文明		エーゲ文明について理解できる	
		12週	地中海世界とギリシア文明(2)ギリシア史とポリス社会		ポリス社会の特質と史的展開とギリシア文化について理解できる	
		13週	地中海世界とギリシア文明(2)ギリシア史とポリス社会		ポリス社会の特質と史的展開とギリシア文化について理解できる	
		14週	地中海世界とギリシア文明(2)ギリシア史とポリス社会		ポリス社会の特質と史的展開とギリシア文化について理解できる	
		15週	期末試験			
		16週	試験の確認			
後期	3rdQ	1週	ヘレニズム世界		ヘレニズムと世界市民主義について理解できる	
		2週	古代ローマ史(1)古代ローマ史の展開と構造		ローマ社会の歩みと展開を理解できる	
		3週	古代ローマ史(1)古代ローマ史の展開と構造		ローマ社会の歩みと展開を理解できる	
		4週	古代ローマ史(2)ローマ帝国の歴史的意味と遺産		ローマ帝国の構造と意義について理解できる	
		5週	古代ローマ史(2)ローマ帝国の歴史的意味と遺産		ローマ帝国の構造と意義について理解できる	
		6週	古代ローマ史(3)キリスト教の成立と展開		キリスト教の史的展開を理解できる	
		7週	古代ローマ史(3)キリスト教の成立と展開		キリスト教の史的展開を理解できる	
		8週	中間試験またはレポート			
	4thQ	9週	ヨーロッパ中世社会(1)中世封建社会の形成過程		封建制度の社会構造と荘園経済について理解できる	
		10週	ヨーロッパ中世社会(1)中世封建社会の形成過程		封建制度の社会構造と荘園経済について理解できる	
		11週	ヨーロッパ中世社会(1)中世封建社会の形成過程		封建制度の社会構造と荘園経済について理解できる	
		12週	ヨーロッパ中世社会(2)十字軍		十字軍の社会背景と時代的特徴について理解できる	
		13週	近世社会への視座		ルネサンスと宗教改革以降の動向と近世的特質を理解できる	

		14週	近世社会への視座		ルネサンスと宗教改革以降の動向と近世的特質を理解できる		
		15週	期末試験				
		16週	試験の確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	基礎数学ⅠA	
科目基礎情報							
科目番号	0011			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	【教科書】新基礎数学 (著者: 高遠節夫 他, 発行: 大日本図書), 【問題集】新基礎数学問題集 (著者: 高遠節夫 他, 発行: 大日本図書)						
担当教員	佐藤 一樹						
到達目標							
①整式の計算ができる。 ②分数式や実数・複素数の計算ができる。 ③基本的な方程式を解くことができる。 ④基本的な不等式を解くことができる。また、集合と命題についての基本的な計算ができる。							
【教育目標】C							
【キーワード】整式, 因数分解, 剰余の定理, 実数, 複素数, 高次方程式, 連立方程式, 恒等式, 不等式, 集合, 命題, 証明							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
整式の計算ができる。	整式の基本的な計算ができる。また、剰余の定理を用いた応用問題が解ける。			整式の加減乗など基本的な計算ができる。		整式の加減乗など基本的な計算ができない。	
分数式や実数・複素数の計算ができる。	分数式の計算ができる。また、実数・複素数の概念を理解し、応用問題が解ける。			分数式の基本的な計算ができる。また、実数・複素数に関する基本問題が解ける。		分数式の基本的な計算ができない。実数・複素数に関する基本的な計算ができない。	
基本的な方程式を解くことができる。	高次方程式や連立方程式が解ける。また、恒等式の証明ができ、応用問題が解ける。			基本的な高次方程式や連立方程式が解ける。また、恒等式の基本的な証明問題が解ける。		高次方程式・連立方程式が解けない。また、恒等式の基本的な証明問題が解けない。	
基本的な不等式を解くことができる。また、集合と命題についての基本的な計算ができる。	様々な不等式を解いたり、不等式の証明ができる。また、集合の概念を理解し、命題の真偽を調べたり証明することができる。			基本的な不等式を解き、不等式の証明ができる。また、集合・命題についての基本問題が解ける。		基本的な不等式が解けない、また、不等式の証明ができない。集合・命題に関する基本問題が解けない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中学校で学んだ数学を基礎に、工学を学ぶ上で必要となる数学を理解するための基本的な数学の概念や計算方法を学ぶ。特に、代数的な基礎知識を修得する。						
授業の進め方・方法	授業は教科書に沿って進めるが、必要に応じて問題集を用いて演習を行う。						
注意点	授業内容を理解するために、予習・復習は必須である。この科目は高専における数学を学習する上で基礎となる。式の計算や方程式を解くことができなければ、数学のみならず工学を学ぶ上でも支障がある。 【事前学習】 「授業計画」に対応する教科書の内容を事前に読んでおくこと。また、ノートの前回の授業部分を復習しておくこと。 【評価方法・評価基準】 試験結果 (100%) で評価する。成績不振者に対しては、課題等の提出を条件に再試験を行うことがある。詳細は第1回目の授業で告知する。数と式の計算、方程式や不等式の解法や証明などの理解度を評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	整式の計算		整式の和・差・積が求められる		
		2週	整式の計算		整式の因数分解ができる		
		3週	整式の計算		整式の除法ができる		
		4週	整式の計算		剰余の定理・因数定理を用いることができる		
		5週	いろいろな数と式		分数式の計算ができる		
		6週	いろいろな数と式		実数・複素数の計算ができる		
		7週	中間試験				
		8週	方程式		2次方程式が解け、解と係数の関係を用いて計算ができる		
	2ndQ	9週	方程式		高次方程式・連立方程式が解ける		
		10週	方程式		恒等式を理解し、証明ができる		
		11週	不等式		1次不等式・2次不等式が解ける		
		12週	不等式		不等式の証明ができる		
		13週	不等式		集合の計算ができる		
		14週	不等式		命題の真偽を調べ、証明することができる		
		15週	期末試験				
		16週	まとめ		前期の内容を理解することができる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	前期中間試験			前期期末試験		合計	

総合評価割合	50	50	100
整式の計算・いろいろな数と式	50	0	50
方程式・不等式	0	50	50

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	基礎数学ⅠB	
科目基礎情報							
科目番号	0012			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科（一般科目）			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	【教科書】新基礎数学（著者：高遠節夫 他，発行：大日本図書），【問題集】新基礎数学問題集（著者：高遠節夫 他，発行：大日本図書）						
担当教員	佐藤 一樹						
到達目標							
①三角比の値を計算し、三角形に応用できる。 ②三角関数の性質や加法定理について理解できる。 ③点と直線・2次曲線とその方程式の関係について理解できる。							
工学を学ぶ上で必要となる数学を理解するための基本的な数学の概念が理解できる。特に、三角関数や初等代数幾何学に関する計算ができる。							
【教育目標】C							
【キーワード】三角関数, 余弦定理, 正弦定理, 加法定理, 直線, 2次曲線, 領域							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
三角比の値を計算し、三角形に応用できる。	三角比・正弦定理・余弦定理を理解できる。また、それらを用いた基本問題・応用問題が解ける。			三角比・正弦定理・余弦定理を理解できる。また、それらを用いた基本問題が解ける。		三角比・正弦定理・余弦定理を理解できない。また、それらを用いた基本問題が解けない。	
三角関数の性質や加法定理について理解できる。	三角関数の性質や加法定理をはじめとする種々の関係式を理解できる。また、それらを用いて基本問題・応用問題が解ける。			三角関数の基本的性質や加法定理をはじめとする種々の関係式を理解できる。また、それらを用いて基本問題が解ける。		三角関数の基本的性質や加法定理をはじめとする種々の関係式を理解できない。また、それらを用いて基本問題が解けない。	
点と直線・2次曲線とその方程式の関係について理解できる。	直線や2次曲線の方程式を理解し、それらを用いて問題が解ける。			直線や2次曲線の方程式を理解し、それらに関する基本問題が解ける。		直線や2次曲線の方程式を理解し、それらに関する基本問題が解けない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中学校で学んだ数学を基礎に、工学を学ぶ上で必要となる数学を理解するための基本的な数学の概念や計算方法を学ぶ。特に、三角関数や初等代数幾何学の知識を修得する。						
授業の進め方・方法	授業は教科書に沿って進めるが、必要に応じて問題集を用いて演習を行う。						
注意点	授業内容を理解するために、予習・復習は必須である。この科目は高専における数学を学習する上で基礎となる。理解が不十分だと、数学のみならず工学を学ぶ上でも支障がある。 【事前学習】 「授業計画」に対応する教科書の内容を事前に読んでおくこと。また、ノートの前回の授業部分を復習しておくこと。 【評価方法・評価基準】 試験結果（100％）で評価する。成績不振者に対しては、課題等の提出を条件に再試験を行うことがある。詳細は第1回目の授業で告知する。三角関数や、図形と方程式の関係についての理解度を評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用		鋭角の三角比を計算できる		
		2週	三角比とその応用		鈍角の三角比を計算できる		
		3週	三角比とその応用		正弦定理, 余弦定理を用いて計算ができる		
		4週	三角関数		一般角の三角関数の値を計算できる		
		5週	三角関数		三角関数の相互関係を用いて計算ができる		
		6週	三角関数		三角関数のグラフを描くことができる		
		7週	三角関数		三角方程式・三角不等式が解ける		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	加法定理とその応用		加法定理を用いて計算ができる		
		10週	加法定理とその応用		2倍角・半角・積和・和積の公式を用いて計算ができる		
		11週	点と直線		2点間の距離や内分点の座標を求めることができる		
		12週	点と直線		直線の方程式を求めることができる		
		13週	2次曲線		円・楕円・双曲線・放物線の標準形を求めることができる		
		14週	2次曲線		不等式の表す領域を図示することができる		
		15週	期末試験				
		16週	まとめ		後期の内容を理解することができる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	後期中間試験		後期期末試験		実力試験		合計

総合評価割合	50	45	5	100
三角関数・図形と	50	0	0	50
図形と式	0	45	0	45
総合的能力	0	0	5	5

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	基礎数学Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	【教科書】新基礎数学 (著者: 高遠 節夫 他、発行: 大日本図書)、【問題集】新基礎数学問題集 (著者: 高遠 節夫 他、発行: 大日本図書)					
担当教員	高橋 知邦,松尾 幸二					
到達目標						
① 2次関数の標準形と判別式を利用して, 2次関数に関する問題が解ける。 ② べき関数・分数関数・無理関数・逆関数について理解し, 関連する問題を解ける。 ③ 指数法則・指数関数・対数とその公式・対数関数を理解し, これらに関する問題が解ける。						
【教育目標】C						
【キーワード】関数, 2次関数, 標準形, 平行移動, 対象移動, 偶関数・奇関数, べき関数, 分数関数, 無理関数, 逆関数, 累乗根, 指数, 指数の拡張, 指数法則, 指数関数, 対数, 対数関数, 常用対数						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
① 2次関数の標準形と判別式を利用して, 2次関数に関する問題が解ける。	2次関数の標準形, グラフ, 最大値・最小値, 2次関数のグラフとx軸との共有点, 2次不等式について理解し, これらに関する基本問題と応用問題が解ける。		2次関数の標準形, グラフ, 最大値・最小値, 2次関数のグラフとx軸との共有点, 2次不等式について理解し, これらに関する基本問題が解ける。		2次関数の標準形, グラフ, 最大値・最小値, 2次関数のグラフとx軸との共有点, 2次不等式などの基本事項が理解できない。	
② べき関数・分数関数・無理関数・逆関数について理解し, 関連する問題を解ける。	べき関数・分数関数・無理関数・逆関数について理解し, これらに関する基本問題と応用問題が解ける。		べき関数・分数関数・無理関数・逆関数について理解し, これらに関する基本問題が解ける。		べき関数・分数関数・無理関数・逆関数に関する基本事項を理解できない。	
③ 指数法則・指数関数・対数とその公式・対数関数を理解し, これらに関する問題が解ける。	指数法則・指数関数・対数とその公式・対数関数に関する基本事項を理解し, 基本問題と応用問題が解ける。		指数法則・指数関数・対数とその公式・対数関数に関する基本事項を理解し, 基本問題が解ける。		指数法則・指数関数・対数とその公式・対数関数に関する基本事項を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	中学校で学んだ数学を基礎に, 工学を学ぶ上で必要となる数学を理解するための基本的な数学の考え方, 特に関数についての基礎知識を習得する。関数の概念から始まり、2次関数とその標準形について学び、それを利用してグラフの軸と頂点を求めてグラフをかくことを学ぶ。さらに、べき関数, 分数関数, 無理関数, 指数関数, 対数関数とそのグラフについて学ぶ。					
授業の進め方・方法	授業は教科書に沿って進める。必要に応じて, 問題を補充することもある。					
注意点	この科目は高専における数学を学ぶ上で基礎となるものである。基本的な関数のグラフや性質を理解していなければ, 数学のみならず工学を学ぶ上でも支障がある。 【事前学習】 「授業項目」に対応する教科書の内容を事前に読んでおくこと。また, ノートの前回の授業部分を復習しておくこと。 【評価方法・評価基準】 試験結果(100%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。また, 自学自習を支援するため, 必要に応じて課題の提出を求める。課題の提出状況によっては, 再試験の受験を認めない場合があるので注意すること。基礎数学Ⅱの内容に関する全般的な理解度を評価し, 総合成績60点以上を単位修得とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	関数とグラフ		関数とそのグラフについて理解できる。	
		2週	2次関数のグラフ		2次関数の標準形を求めることができる。	
		3週	2次関数のグラフ		2次関数のグラフを描くことができる。	
		4週	2次関数の最大・最小		2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		5週	2次方程式		2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解できる。	
		6週	2次方程式		2次関数の判別式をグラフの問題に応用できる。	
		7週	中間試験			
		8週	2次不等式		2次不等式と判別式の関係について理解できる。	
	2ndQ	9週	2次不等式		グラフを用いて2次不等式を解くことができる。	
		10週	べき関数		べき関数, 偶関数, 奇関数の概念について理解できる。	
		11週	べき関数		関数のグラフの平行移動について理解できる。	
		12週	分数関数・無理関数		分数関数のグラフを描くことができる。	
		13週	分数関数・無理関数		無理関数のグラフを描くことができる。	
		14週	分数関数・無理関数		無理関数のグラフの拡大・縮小ができる。	

後期		15週	期末試験	
		16週	まとめ	前期の内容を理解することができる。
	3rdQ	1週	逆関数	逆関数を求め、そのグラフを描くことができる。
		2週	累乗根	累乗根の概念が理解でき、計算ができる。
		3週	指数の拡張	指数の拡張を理解できる。
		4週	指数の拡張	指数法則を用いて計算ができる。
		5週	指数関数	指数関数のグラフを描くことができる。
		6週	指数方程式・指数不等式	指数方程式・指数不等式を解くことができる。
		7週	中間試験	
	4thQ	8週	対数	対数の概念を理解でき、値を求めることができる。
		9週	対数	対数の公式を用いて計算ができる。
		10週	対数	対数の底の変換ができる。
		11週	対数関数	対数関数の概念を理解できる。
		12週	対数関数	対数関数のグラフを描くことができる。
		13週	対数方程式・対数不等式	対数方程式・対数不等式を解くことができる。
		14週	常用対数	常用対数を利用し、近似計算をすることができる。
		15週	期末試験	
		16週	まとめ	後期の内容を理解することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	前期中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	合計
総合評価割合	25	25	25	25	100
2次関数	25	0	0	0	25
2次不等式、べき関数、 分数関数、無理関数	0	25	0	0	25
指数関数	0	0	25	0	25
対数関数	0	0	0	25	25

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	基礎物理	
科目基礎情報							
科目番号	0021		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書: 総合物理 1 - 力と運動・熱 -, 参考書: リードα 物理基礎・物理, 新課程フォローアップドリル物理基礎 (運動の表し方・力・運動方程式)						
担当教員	白井 仁人						
到達目標							
① 物体の運動における速度, 加速度が理解できる。 ② また、物体の速度, 加速度, 運動をベクトルや三角関数を用いた表現ができる。 ③ 加速度運動の例として、落体の運動を理解できる。 ④ いろいろな力があることを知り、その力の性質を理解できる。							
【教育目標】C							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
① 物体の運動における速度, 加速度が理解できる。	平面内の加速度運動と相対速度を理解できる。		直線上の加速度運動と相対速度を理解できる。		直線上の加速度運動と相対速度を理解できない。		
② また、物体の速度, 加速度, 運動をベクトルや三角関数を用いた表現ができる。	平面内の加速度運動と相対速度を、ベクトルで表現できる。		直線上の加速度運動と相対速度を、ベクトルで表現できる。		直線上の加速度運動と相対速度を、ベクトルで表現できない。		
③ 加速度運動の例として、落体の運動を理解できる。	平面内の落体の運動を理解し、計算できる。		直線上の落体の運動を理解し、計算できる。		直線上の落体の運動を理解し、計算できない。		
④ いろいろな力があることを知り、その力の性質を理解できる。	3力の釣り合いをベクトルで表現し、計算できる。		2力の釣り合いをベクトルで表現し、計算できる。		2力の釣り合いをベクトルで表現し、計算できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	物体の運動における速度, 加速度が理解する。また、物体の速度, 加速度, 運動をベクトルや三角関数を用いた表現ができるようになる。加速度運動の例として、落体の運動について理解する。また、いろいろな力があることを知り、その力の性質を理解する。						
授業の進め方・方法	教科書に沿って進むので、教科書や参考書の内容を事前によく読んでおき予習をしておくこと。また、ノートや教科書の復習し、各自で問題演習を行っておくこと。						
注意点	問題集等は必ず自分で進めていくこと。 【事前学習】教科書で予習を行い、問題集等は必ず自分で進めていくこと。 【評価方法・評価基準】試験結果100%で評価する。総合成績が60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション 第1章 運動の表し方 1. 速度 A.速さと等速直線運動		速度の概念と等速直線運動の式を理解できる。		
		2週	B.変位 ベクトルの成分、和と差 C.速度		ベクトルの和と差の考え方を理解できる。		
		3週	D.平均の速度、瞬間の速度		平均の速度と瞬間の速度の違いを理解できる。		
		4週	E.速度の合成		速度を合成できる。		
		5週	F.相対速度		相対速度の概念を理解できる。		
		6週	2. 加速度 A.加速度 B.等加速度直線運動		等加速度直線運動 (加速度正)を理解し、計算できる。		
		7週	B.等加速度直線運動		等加速度直線運動 (加速度負)を理解し、計算できる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	試験返却・解説 3. 落体の運動 A.自由落下 B.鉛直投射 ①鉛直投げ下し		自由落下と鉛直投げおろしの式を理解できる。		
		10週	B.鉛直投射 ②鉛直投げあげ ③水平投射		鉛直投げ上げと水平投射の式を理解できる。		
		11週	D.斜方投射		斜方投射の式を理解できる。		
		12週	1. 力とそのはたらき A.力 B.いろいろな力		いろいろな力があることを理解できる。		
		13週	第2章 運動の法則 2. 力のつりあい A.力の合成・分解		力を合成したり、分解したりできる。		
		14週	B.力のつりあい ①2力のつりあい ②3力のつりあい ③釣り合いの条件		2力のつりあい、3力のつりあいを計算できる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却・解説 まとめ		学習内容を振り返り、理解できたところを確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	中間試験	期末試験	合計
総合評価割合	50	50	100
速度、加速度	50	0	50
落体の運動、力のつりあい	0	50	50

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	化学 I
科目基礎情報						
科目番号	0026		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書、参考書：化学基礎(竹内敬人 他、東京書籍)、ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍編集部、東京書籍)、ニューレッツトライノート化学基礎vol.2(東京書籍編集部、東京書籍)、ニューレッツトライノート化学基礎vol.3(東京書籍編集部、東京書籍)、フォトサイエンス化学図録(黒杭清治、数研出版)、はじめての化学実験(西山隆造、安楽豊満、オーム社)					
担当教員	滝渡 幸治,木村 寛恵,中川 裕子					
到達目標						
物質の構成、性質、変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、原子、分子の立場で考察する能力や探究心を育む。 【教育目標】C						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
物質の成分と構成元素について理解することができる。	純物質と混合物、単体と化合物、元素の確認、物質の状態変化、粒子の熱運動について説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		純物質と混合物、単体と化合物、元素の確認、物質の状態変化、粒子の熱運動について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		純物質と混合物、単体と化合物、元素の確認、物質の状態変化、粒子の熱運動について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。	
原子の構造と原子の周期表について理解することができる。	原子の構造と原子の周期表について基本事項を説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		原子の構造と原子の周期表について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		原子の構造と原子の周期表について基本事項を理解できず、関連する基本問題を解くことができない。	
化学結合について理解することができる。	イオン結合とイオン結晶、共有結合とその結晶、配位結合、金属結合と金属結晶、分子結晶について説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		イオン結合とイオン結晶、共有結合とその結晶、配位結合、金属結合と金属結晶、分子結晶について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		イオン結合とイオン結晶、共有結合とその結晶、配位結合、金属結合と金属結晶、分子結晶について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。	
物質量と化学反応式について理解することができる。	原子量・分子量・式量、物質量、溶液の濃度化学反応式とその量的関係について説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		原子量・分子量・式量、物質量、溶液の濃度化学反応式とその量的関係について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		原子量・分子量・式量、物質量、溶液の濃度化学反応式とその量的関係について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。	
酸と塩基について理解することができる。	酸と塩基について基本事項を説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		酸と塩基について基本事項を説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		酸と塩基の基本事項について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。	
酸化還元反応について理解することができる。	酸化還元反応について基本事項を説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		酸化還元反応について基本事項を説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		酸化還元反応の基本事項について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	物質の構成、性質、変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、原子、分子の立場で考察する能力や探究心を育む。					
授業の進め方・方法	理解を深めるために演習や演示実験も行う。 問題集を自宅における自学自習に活用すること。 場合に応じて宿題を課す。					
注意点	【事前学習】 ・教科書の該当する授業範囲を読み、前回の授業内容を復習して次の授業に臨むこと。 ・ものづくり実験実習Cに関わる内容もあるので注意すること。 ・定期試験は直近の学習範囲を中心に、既学習範囲から重要事項を出題する。 【評価方法・評価基準】 ・試験結果(90%)課題(10%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。 ・物質に関する化学的な基本概念、原理、法則、化学用語、化学式・化学反応式の活用、物質の性質、反応、物質の量的関係の理解の程度を評価する。 ・総合成績 6 0 点以上を単位修得とする。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	化学と人間の生活		化学を学習する意義を理解できる。	
		2週	物質の探求		物質の分類、分離、物質の状態について理解できる。	
		3週	原子の構造と元素の周期表		原子の構造、元素の分類方法、元素の周期表を理解できる。	
		4週	原子の構造と元素の周期表		原子の構造、元素の分類方法、元素の周期表を理解できる。	
		5週	化学結合		様々な化学結合のしくみと性質、物質の成り立ちについて理解できる。	
		6週	化学結合		様々な化学結合のしくみと性質、物質の成り立ちについて理解できる。	
		7週	化学結合		様々な化学結合のしくみと性質、物質の成り立ちについて理解できる。	
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	原子量・分子量・式量		物質の相対質量である原子量、分子量、式量が理解できる。	

後期		10週	物質質量	物質の量について考える方法である物質質量が理解できる。
		11週	物質質量	物質の量について考える方法である物質質量が理解できる。
		12週	物質質量	物質の量について考える方法である物質質量が理解できる。
		13週	溶液の濃度	物質質量を用いた溶液の濃度が計算できる。
		14週	化学反応式	化学反応式を書くことができる。
		15週	期末試験	
		16週	まとめ	前期の内容を理解できる
	3rdQ	1週	物質質量と化学反応式	化学反応式から物質の量の関係を計算できる。
		2週	物質質量と化学反応式	化学反応式から物質の量の関係を計算できる。
		3週	酸と塩基、pH	酸と塩基が理解でき、水溶液のpHが計算できる。
		4週	酸と塩基、pH	酸と塩基が理解でき、水溶液のpHが計算できる。
		5週	中和反応と中和滴定	中和反応が理解でき、中和滴定で酸、塩基の水溶液の濃度を求めることができる。
		6週	中和反応と中和滴定	中和反応が理解でき、中和滴定で酸、塩基の水溶液の濃度を求めることができる。
		7週	酸化と還元	酸化還元反応が理解できる。物質中の元素の酸化数が計算できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	酸化と還元	酸化還元反応が理解できる。物質中の元素の酸化数が計算できる。
		10週	酸化と還元	酸化還元反応が理解できる。物質中の元素の酸化数が計算できる。
		11週	金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向と化学反応の関係が理解できる。
		12週	金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向と化学反応の関係が理解できる。
		13週	電池と電気分解	電池と電気分解のしくみが理解でき、電気量と物質の量を計算できる。
		14週	電池と電気分解	電池と電気分解のしくみが理解でき、電気量と物質の量を計算できる。
		15週	期末試験	
		16週	まとめ	後期の内容を理解できる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題					合計	
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100	
総合評価	90	10	0	0	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	生物・地学	
科目基礎情報							
科目番号	0028			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	未来創造工学科（一般科目）			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：生物基礎（東京書籍）、地学基礎（東京書籍）						
担当教員	堀江 佐知子						
到達目標							
生物学や地学に対する探求心を高め、これらの体系的な知識を習得して、基本的な概念や原理法則の理解を深め、科学的な自然観を育成することを目標とする。							
【教育目標】 C							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生物学や地学に対する探求心を高め、これらの体系的な知識を習得して、基本的な概念や原理法則の理解を深め、科学的な自然観を育成することを目標とする。						
授業の進め方・方法	「授業項目」に対応する教科書の内容を事前に読んでおくこと。授業は教科書に沿って進めるが、必要に応じて演示実験等を行う場合がある。高学年に履修する生物関連の科目との関係を考慮して、発展的な内容を解説することがあるので予習・復習をきちんと行うこと。						
注意点	【事前学習】教科書で予習を行い、問題集等は必ず自分で進めていくこと。 【評価方法・評価基準】試験結果100%で評価する。総合成績が60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	生物の特徴 生物の共通性		細胞の機能が理解できる。		
		2週	生命活動を支える代謝		細胞小器官の働きが理解できる。		
		3週	生体内のエネルギー変換		呼吸と光合成の反応過程が理解できる。		
		4週	遺伝子 D N A の構造		D N A の構造や塩基について理解できる。		
		5週	遺伝情報の分配		細胞分裂や細胞周期について理解できる。		
		6週	中間試験				
		7週	遺伝情報とタンパク質の合成		タンパク質の合成について理解できる。		
		8週	宇宙の進化		地球と月の関係が理解できる。		
	2ndQ	9週	太陽と惑星		地球における大気と水の役割を理解できる。		
		10週	地球の変遷と生物の進化		生命の誕生を理解できる。		
		11週	地球の変遷と生物の進化		生命の変遷を理解できる。		
		12週	地球の内部と活動		地球の内部構造を理解できる。		
		13週	地球の内部と活動		地震のメカニズムについて理解できる。		
		14週	生物の多様性と生態系		植生の多様性と分布について理解できる。		
		15週	期末試験				
		16週	試験返却と解説 まとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育 I	
科目基礎情報							
科目番号	0029			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	最新保健体育/COLOR WIDE SPORT						
担当教員	菅野 俊郎						
到達目標							
①各種身体運動に必要な基礎技術の習得ができる。 ②スポーツテストにより、自己の体力・運動能力に関心を持つことができる。 ③保健に関する知識を理解することができる。							
【教育目標】 A, B, E							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
①各種身体運動に必要な基礎技術の習得ができる。	各種身体運動に必要な基礎技術の習得が高くできる。			各種身体運動に必要な基礎技術の習得ができる。		各種身体運動に必要な基礎技術の習得ができない。	
②スポーツテストにより、自己の体力・運動能力に関心を持つことができる。	スポーツテストにより、自己の体力・運動能力に強く関心を持つことができる。			スポーツテストにより、自己の体力・運動能力に関心を持つことができる。		スポーツテストにより、自己の体力・運動能力に関心を持つことができない。	
③保健に関する知識を理解することができる。	保健に関する基礎的な知識を広く理解することができる。			保健に関する基礎的な知識を理解することができる。		保健に関する基礎的な知識を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各種身体運動に必要な基礎技術の習得とスポーツテストによる体力・運動能力の自己評価方法を学習させ、自己の体力・運動能力に関心を持つ。保健に関する知識を理解する。						
授業の進め方・方法	・ 服装や体育館用シューズは学校指定のものを身につける。 ・ 実技実施不可能の学生に対し、見学者として考慮することがある。 ・ 安全については常に心がけ、怪我のないよう留意する。						
注意点	【事前学習】・「授業項目」に対応する教科書・参考書の内容を事前に読んでおくこと。また、前回の学習内容についての確認をしておくこと。 【評価方法・評価基準】 保健体育の成績はスキルテスト等(70%)、学習状況「活動量・態度・姿勢」(30%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。種目別、教材別に到達スキルを設定し、達成度の程度を評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・集団行動			オリエンテーションをする。 集団行動ができる	
		2週	体づくり運動			ストレッチ運動ができる。	
		3週	体づくり運動			サーキット運動ができる。	
		4週	体づくり運動			筋力アップ運動ができる。	
		5週	体づくり運動			筋力アップ運動ができる。	
		6週	陸上 (短距離・障害走)			短距離走と障害走では試しの記録会を実施し、自分の力を知ることができる。	
		7週	陸上 (短距離・障害走)			種目の特性を理解し、より発展した施術の獲得を目指すことができる。	
		8週	陸上 (短距離・障害走)			種目の特性を理解し、より発展した施術の獲得を目指すことができる。	
	2ndQ	9週	陸上 (短距離・障害走)			種目の特性を理解し、より発展した施術の獲得を目指すことができる。	
		10週	体力テスト			体力テストを行い、自己の身体的特徴を把握することができる。	
		11週	体力テスト			体力テストを行い、自己の身体的特徴を把握することができる。	
		12週	体力テスト			体力テストを行い、自己の身体的特徴を把握することができる。	
		13週	バレーボール			基本的ルールを理解し、簡易ゲームができる。	
		14週	バレーボール			基本的ルールを理解し、簡易ゲームができる。	
		15週	バレーボール 達成度の点検			基本的ルールを理解し、簡易ゲームができる。	
		16週					
後期	3rdQ	1週	陸上 (持久走・リレー)			長距離走とリレーでは試しの記録会を実施し、自分の力を知ることができる。	
		2週	陸上 (持久走・リレー)			種目の特性を理解し、より発展した技術の獲得を目指すことができる。	
		3週	陸上 (持久走・リレー)			種目の特性を理解し、より発展した技術の獲得を目指すことができる。	
		4週	陸上 (持久走・リレー)			種目の特性を理解し、より発展した技術の獲得を目指すことができる。	
		5週	バレーボール			特性にふれ、基本技術を習得することができる。	
		6週	バレーボール			特性にふれ、基本技術を習得することができる。。	
		7週	バレーボール			基本的ルールを理解し、簡易ゲームができる。	

4thQ	8週	バレーボール	基本的ルールを理解し、簡易ゲームができる。	
	9週	バスケットボール	基本技術を習得することができる。	
	10週	バスケットボール	基本技術を習得することができる。	
	11週	バスケットボール	基本技術を習得することができる。	
	12週	バスケットボール	基本的なルールを理解し、簡易ゲームができる。	
	13週	バスケットボール	基本的なルールを理解し、簡易ゲームができる。	
	14週	保健（現代社会と健康）	現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて理解することができる。	
	15週	保健（現代社会と健康）	達成度の点検	現代の健康問題や新しい時代の健康のあり方などについて理解することができる。
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		スキルテスト点	学習状況	合計	合計
総合評価割合		70	30	100	200
総合評価割合		70	30	100	200

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	総合英語ⅠA (コミュニケーション)	
科目基礎情報							
科目番号	0033			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	Polestar English CommunicationⅠ						
担当教員	千葉 圭						
到達目標							
テキストのレベルに合わせた英語によるコミュニケーションの基礎的な能力を身に付け、読み・書き・聞き取り、英語で表現することができるようになる。 【教育目標】A							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	検定教科書を使って、「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能をバランス良く向上させるためにプリント等を利用して学習する。						
授業の進め方・方法	教科書と補助教材を用いて進める。詳細は第1回の授業で告知する。						
注意点	【事前学習】 予め、学習する内容の中で、分からないことを辞書を用いて調べておくこと。 【評価方法・評価基準】 試験100%で評価する。レポートの提出を求めることもある。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	L 1 和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重する態度を養う。		和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重できるようになる。		
		2週	L 1 和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重する態度を養う。		和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重できるようになる。		
		3週	L 1 和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重する態度を養う。		和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重できるようになる。		
		4週	L 1 和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重する態度を養う。		和食に関する英文を読み、日本の伝統文化及び、他国の文化を尊重できるようになる。		
		5週	L 1 の復習		ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		
		6週	L 2 ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		
		7週	L 2 ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		
		8週	L 2 ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		
	2ndQ	9週	L 2 ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		ペットボトルに関する英文を読み、リサイクルと環境保全に関する意識を高める。		
		10週	L 2 の復習				
		11週	L 3 冒険家、石川氏に関する英文を読み、他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を学ぶ。		他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を身に着ける。		
		12週	L 3 冒険家、石川氏に関する英文を読み、他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を学ぶ。		他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を身に着ける。		
		13週	L 3 冒険家、石川氏に関する英文を読み、他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を学ぶ。		他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を身に着ける。		
		14週	L 3 冒険家、石川氏に関する英文を読み、他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を学ぶ。		他者の尊重や自他の敬愛と協力に対する態度を身に着ける。		
		15週	到達度試験				
		16週	試験の返却と達成度の評価				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	総合英語 I A (文法)	
科目基礎情報							
科目番号	0034			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	鈴木希明 (監修) 総合英語 be Voyage to English Grammar English Grammar 23 3rd Edition, いいづな書店						
担当教員	二本柳 譲治						
到達目標							
高等学校レベルの英文法の基礎が理解できる。							
【教育目標】 A							
ルーブリック							
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を伸ばすとともに、外国語を通して国際的な視野を身につけることを目指す。						
授業の進め方・方法	教科書で各項目の内容を説明した後、問題の演習を行う。						
注意点	【事前学習】 すべての問題に解答を試みてから授業に臨むこと。辞書を常に手元に置き、載っている情報を最大限に活用し、知識の定着に努める。 【評価方法・評価基準】 試験結果 (100%) で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。下記到達目標に示された項目に関する理解の程度を評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Lesson 1 英語の語順 (1)		SV, SVC, SVO の語順が理解できる		
		2週	Lesson 2 英語の語順 (2)		SVOO, SVOC, There + be 動詞の語順が理解できる		
		3週	Lesson 3 文の種類		平叙文, 疑問文, 命令文が理解できる		
		4週	Lesson 4 時制 (1)		現在形, 過去形, 進行形が理解できる		
		5週	Lesson 5 時制 (2)		未来のことを表す表現, 未来進行形, 未来のことを表す現在形・現在進行形が理解できる		
		6週	Lesson 6 完了形 (1)		現在完了形<完了・結果>, 現在完了形<経験>, 現在完了形<継続> 現在完了進行形が理解できる		
		7週	Lesson 7 完了形 (2)		過去完了形<完了・結果・経験>, 過去完了形<継続>・過去完了進行形, 過去完了形<大過去> がりかいできる		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	Lesson 8 助動詞 (1)		can, may, must が理解できる		
		10週	Lesson 9 助動詞 (2)		should / had better, will / shall, would / used to が理解できる		
		11週	Lesson 10 受動態		受動態の基本形, 疑問詞・助動詞を使う受動態, 前置詞に注意すべき受動態が理解できる		
		12週	Lesson 11 不定詞 (1)		不定詞の名詞用法, 不定詞の形容詞用法, 疑問詞+不定詞が理解できる		
		13週	Lesson 12 不定詞 (2)		不定詞の副詞用法<目的・結果>, 不定詞の副詞用法<原因・根拠>, 不定詞の意味上の主語の示し型と否定後の位置が理解できる		
		14週	Lesson 13 不定詞 (3)		不定詞の進行形・受動態・完了形, 動詞+名詞+不定詞, 原型不定詞 (動詞の原形) の用法が理解できる		
		15週	期末試験				
		16週	まとめ		前期の内容が理解できる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	総合英語 I B (コミュニケーション)		
科目基礎情報								
科目番号	0056			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)			対象学年	1			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	Polestar English Communication I							
担当教員	千葉 圭							
到達目標								
テキストのレベルに合わせた英語によるコミュニケーションの基礎的な能力を身に着け、読み・書き・聞き取り、英語で表現することができるようになる。 【教育目標】 A								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1								
評価項目2								
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	検定教科書を使って、「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能をバランス良く向上させるためにプリント等を利用して学習する。							
授業の進め方・方法	テキストと補助教材を用いて学習する。詳細は第1回の授業で告知する。							
注意点	【事前学習】 予め、学習する内容の中で、分からないことを辞書を用いて調べておくこと。 【評価方法・評価基準】 試験 1 0 0 % で評価する。レポートの提出を求めることもある。							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	テカポの星空についての英文を読み、自然と環境について学ぶ。			自然を敬い、環境の保全に寄与する態度を身につける。		
		2週	テカポの星空についての英文を読み、自然と環境について学ぶ。			自然を敬い、環境の保全に寄与する態度を身につける。		
		3週	テカポの星空についての英文を読み、自然と環境について学ぶ。			自然を敬い、環境の保全に寄与する態度を身につける。		
		4週	テカポの星空についての英文を読み、自然と環境について学ぶ。			自然を敬い、環境の保全に寄与する態度を身につける。		
		5週	L 4 の復習					
		6週	L 5 「アメイジンググレイス」についての英文を読み、正義と責任・人種平等について学ぶ。			正義と責任・人種平等について理解する。		
		7週	L 5 「アメイジンググレイス」についての英文を読み、正義と責任・人種平等について学ぶ。			正義と責任・人種平等について理解する。		
	4thQ	8週	L 5 「アメイジンググレイス」についての英文を読み、正義と責任・人種平等について学ぶ。			正義と責任・人種平等について理解する。		
		9週	L 5 「アメイジンググレイス」についての英文を読み、正義と責任・人種平等について学ぶ。			正義と責任・人種平等について理解する。		
		10週	L 5 の復習					
		11週	L 6 「紛争ダイヤモンド」についての英文を読み、社会の二面性・経済格差について学ぶ。			社会の二面性・経済格差について理解する。		
		12週	L 6 「紛争ダイヤモンド」についての英文を読み、社会の二面性・経済格差について学ぶ。			社会の二面性・経済格差について理解する。		
		13週	L 6 「紛争ダイヤモンド」についての英文を読み、社会の二面性・経済格差について学ぶ。			社会の二面性・経済格差について理解する。		
		14週	L 6 「紛争ダイヤモンド」についての英文を読み、社会の二面性・経済格差について学ぶ。			社会の二面性・経済格差について理解する。		
		15週	到達度試験					
16週	試験の返却と達成度の評価							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	総合英語 I B (文法)	
科目基礎情報							
科目番号	0057			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	鈴木希明 (監修) 総合英語 be Voyage to English Grammar English Grammar 23 3rd Edition, いいづな書店						
担当教員	二本柳 譲治						
到達目標							
高等学校レベルの英文法の基礎が理解できる。							
【教育目標】 A							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を伸ばすとともに、外国語を通して国際的な視野を身につけることを目指す。						
授業の進め方・方法	教科書で各項目の内容を説明した後、問題の演習を行う。						
注意点	【事前学習】 すべての問題に解答を試みてから授業に臨むこと。辞書を常に手元に置き、載っている情報を最大限に活用し、知識の定着に努める。 【評価方法・評価基準】 試験結果 (100%) で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。下記到達目標に示された項目に関する理解の程度を評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Lesson 14 動名詞 (1)		動名詞の用法, 動名詞の意味上の主語の示し方と否定後の位置が理解できる		
		2週	Lesson 15 動名詞 (2)		動名詞の受動態と完了形, 動名詞か不定詞のどちらかを続ける動詞, 動名詞と不定詞で意味が変わる動詞が理解できる		
		3週	Lesson 16 分詞 (1)		名詞を修飾する分詞 (限定用法), 補語になる分詞 (叙述用法), have[get]+名詞+分詞が理解できる		
		4週	Lesson 17 分詞 (2)		知覚動詞+名詞+分詞, 分詞構文, with+名詞+分詞 (付帯状況) が理解できる		
		5週	Lesson 18 関係詞 (1)		主格の関係代名詞 (who, which), 目的格の関係代名詞 (who[whom], which), 所有格の関係代名詞 (whose) が理解できる		
		6週	Lesson 19 関係詞 (2)		前置詞の目的語になる関係代名詞, 関係代名詞の非限定用法, 関係代名詞 what が理解できる		
		7週	Lesson 20 関係詞 (3)		関係副詞 where / when (限定用法), 関係副詞 where / when (非限定用法), 関係副詞 why / howが理解できる		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	Lesson 21 比較 (1)		原級を使う比較, 比較級を使う比較, 最上級を使う比較が理解できる		
		10週	Lesson 22 比較 (2)		差の程度を示す表現, 原級や比較級を使って表す最上級の意味, いろいろな比較表現が理解できる		
		11週	Lesson 23 仮定法		仮定法過去, 仮定法過去完了, 願望を表す仮定法が理解できる		
		12週	Further Study 1 代名詞		it の使い方, 不定代名詞 one / another / other, 不定代名詞 all / none / each, 不定代名詞 both / either / neither が理解できる		
		13週	Further Study 2 接続詞		等位接続詞を使った表現, both A and B / not only A but (also) B, 名詞節をつくる従属接続詞, 副詞節をつくる従属接続詞が理解できる		
		14週	Further Study 3 構文 (1)		強調構文, 倒置, that 節で動詞の原形や should を使う表現, that 節を使う表現が理解できる		
		15週	期末試験				
		16週	まとめ		後期の内容が理解できる		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

一関工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	課題研究Ⅰ（フランス語）	
科目基礎情報							
科目番号	0066			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	未来創造工学科（一般科目）			対象学年	1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	『新装 カフェ・フランセ』朝日出版社／仏和辞書（初心者用なら何でも可。初回に指示する）						
担当教員	矢野 禎子						
到達目標							
フランス語で簡単なコミュニケーション（挨拶、自己紹介、買い物など）が取れるようになることを目標とする。 目標到達にあたり ①フランスの基礎文法を身につけ、使いこなすことができる ②フランス語の発音を身につけ、相手に通じるよう発音できる ③すでに知っている表現についてはフランス語で聞き取ることができるようにする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		教科書をもとに発音、基礎文法を学習する。 学習した内容を教室内で行う練習問題やロールプレイングでアウトプットし、より実践的に身に着ける。					
授業の進め方・方法		自宅で教科書や配布プリントの予習を必ず行い、内容を把握・理解することに努めること（予習の範囲は授業ごとに指示する）。 授業中は各自の予習内容をもとに、毎回質問を受け付けることから始める。 学習し、理解した内容を練習問題やロールプレイングを行いより実践的な形で定着させる。					
注意点		参加型、実践型の授業を行う時間を確保するため、必ず予習をし、復習も行うようにする。 教材に付属している音源やその他メディアを活用し、聞き取りと発音をしっかりと身に着ける。 授業へ積極的に参加（質問、アクティビティ）をする。 【事前学習】 教科書、プリントの指示された部分を予習し、文法規則などを理解する。教科書内の単語を事前に調べておく。 自身での予習では解らなかったことを、疑問に思ったことは書きとめ、次回の授業で質問をする。 【評価方法・評価基準】 期末試験（60％）、授業への参加（30％）、出席（10％）で評価する。総合得点60点以上で単位取得とする。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 教室内で使うフランス語の表現の学習			教室内で使うフランス語の表現が理解でき、使用することができる	
		2週	フランス語の発音			フランス語の発音の基本的な規則を理解し、発音できる	
		3週	自己紹介			自分の名前が言え、相手にたずねることができる 挨拶ができる	
		4週	フランス語のアルファベと0～20の数字			フランス語のアルファベ、数字を聞き取れ、言うことができる	
		5週	職業と住まいを言う			職業と住まいを表現する動詞や語彙を聞き取れ、言うことができる 相手に尋ねることができる	
		6週	フランス語のアルファベと発音の復習と21～30の数字			フランス語のアルファベや発音をより理解し、使いこなせる 数字を聞き取れ、言うことができる	

		7週	国籍、言語と否定文	性数一致や否定文のつくり方を理解し、作る（言う）ことができる
		8週	お店で注文する、30～69の数字	店で注文や買い物に必要な簡単な表現を覚え、使うことができる。金額を聞き取ることができる。
	4thQ	9週	綴りを言う	フランス語のアルファベをつかい、綴りを言ったりたずねたりできる
		10週	～を持っている、（兄弟などが）いる	動詞avoirの活用ができ、この動詞を使った表現を理解し言うことができる
		11週	身の回りのものを表す	身の回りのものについて表現したり、たずねたりできる
		12週	自分以外の人を表す	自分や相手以外の人について説明できる
		13週	場所を表す1	場所をたずねたり、答えたりできる 関連する前置詞を理解し、使うことができる
		14週	場所を表す2	道案内を理解できる 道案内ができる
		15週	期末試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	期末試験	授業への参加度	出席	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
評価割合	60	30	10	100	